

東日本大震災後の国土計画のあり方と 三陸広域復興ビジョンの研究

東京大学工学系研究科都市工学専攻
国際都市・地域計画研究室

城所哲夫、片山健介、林和眞、ユン・ヘヨン、隅田順、小野悠、鳥海陽史、馬旻、
久保敦史、ソラヤ・オスマン

(2011年12月9日版)

目次

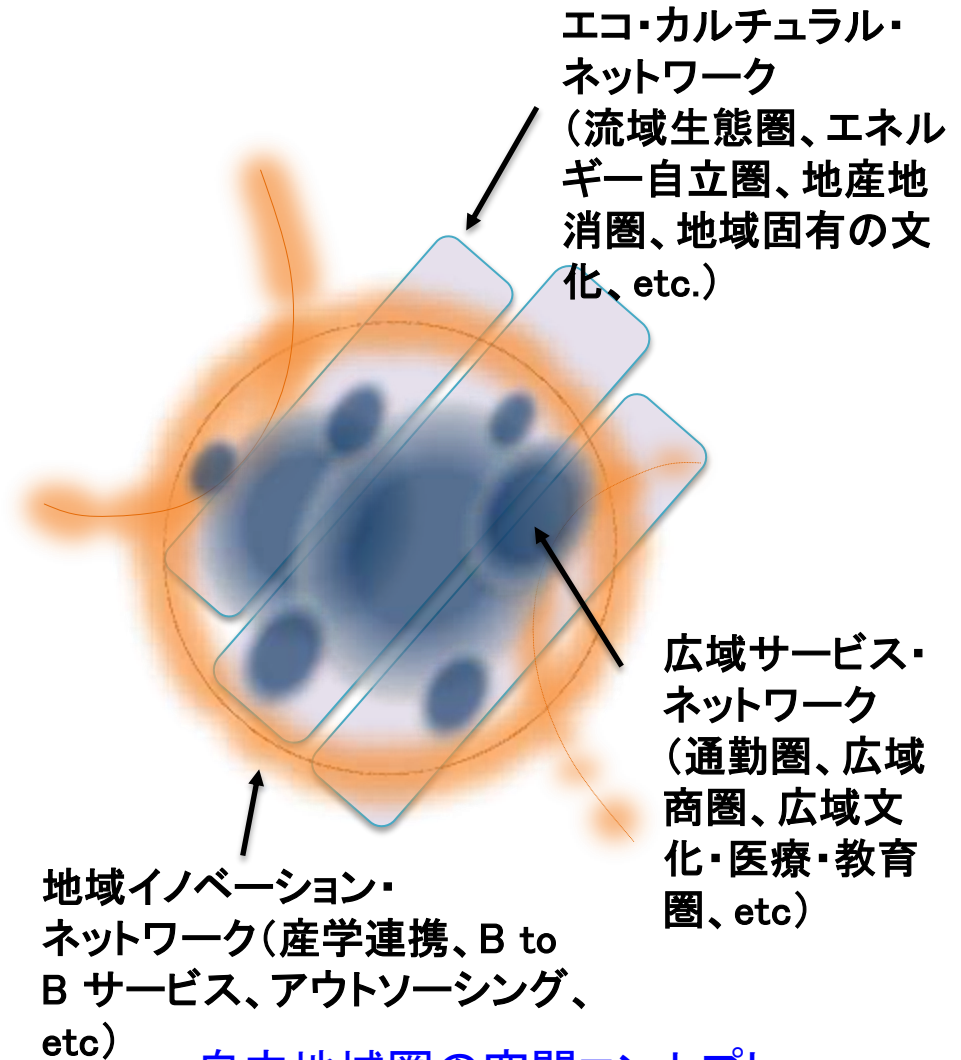
1. 東日本大震災による津波災害、原発事故災害の教訓から考える
これからの国土空間ネットワーク
 - 自立地域圏の重層的ネットワークによる国土空間ネットワークの構築
 - 都市・農山漁村間関係のあり方の見直し
 - 空間ガバナンスのあり方の見直し
2. 三陸広域復興ビジョンの研究
 - 復興シナリオ
 - 三陸広域復興ビジョン
 - 空間フレーム
 - 広域サービス・ネットワーク
 - 広域交通ネットワーク
3. 分析
 - 広域的観点からみた三陸地域
 - エコ・カルチュラル・ネットワーク
 - 広域サービス・ネットワーク
 - 地域イノベーション・ネットワーク
4. 三陸ライフスタイル
 - 三陸ライフスタイルの提案
 - 三陸ライフスタイルを支える仕組み
 - まちづくり会社
 - マイクロファイナンス
 - これからの三陸ライフをイメージする

東日本大震災による津波災害、原発事故災害
の教訓から考える
これからの国土空間ネットワーク



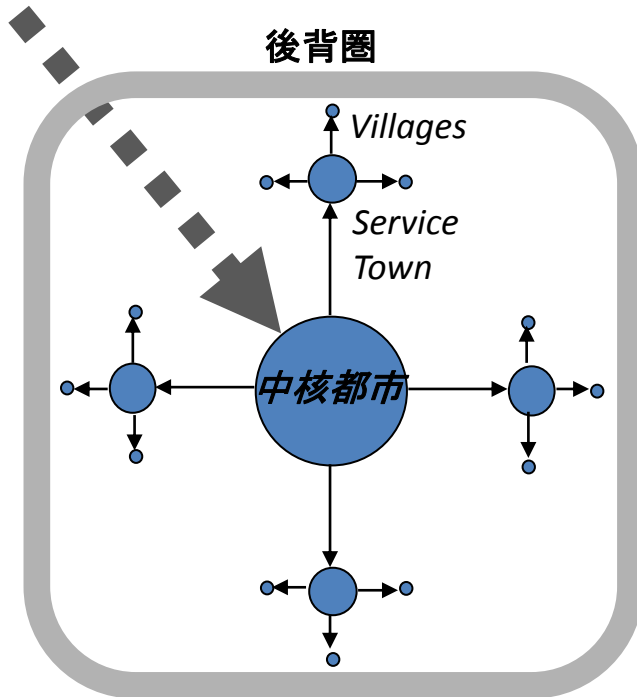
1. 自立地域圏の重層的ネットワークによる 国土空間ネットワークの構築

- 自立地域圏の重層的ネットワークから成り立つ国土空間ネットワーク
- 自立地域圏を構成する3つの複層的ネットワーク（それぞれ、空間的には異なる範囲）
 - ✓ 広域サービス・ネットワーク
 - ✓ エコ・カルチュラル・ネットワーク
 - ✓ 地域イノベーション・ネットワーク



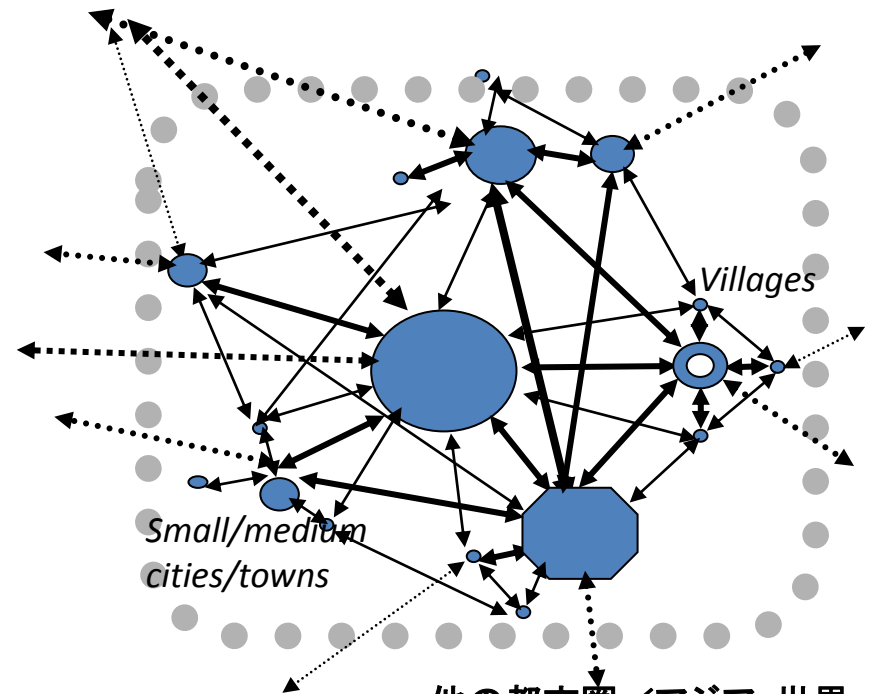
都市・農山漁村間関係のあり方の見直し

大都市／世界



垂直的中心地モデル

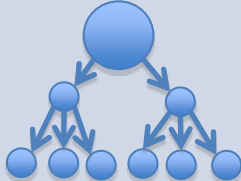
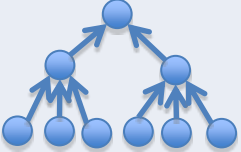
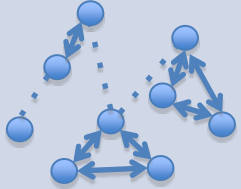
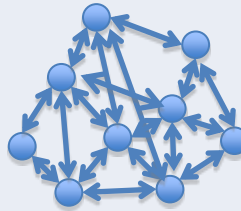
他の都市圏／アジア・世界



ネットワークモデル

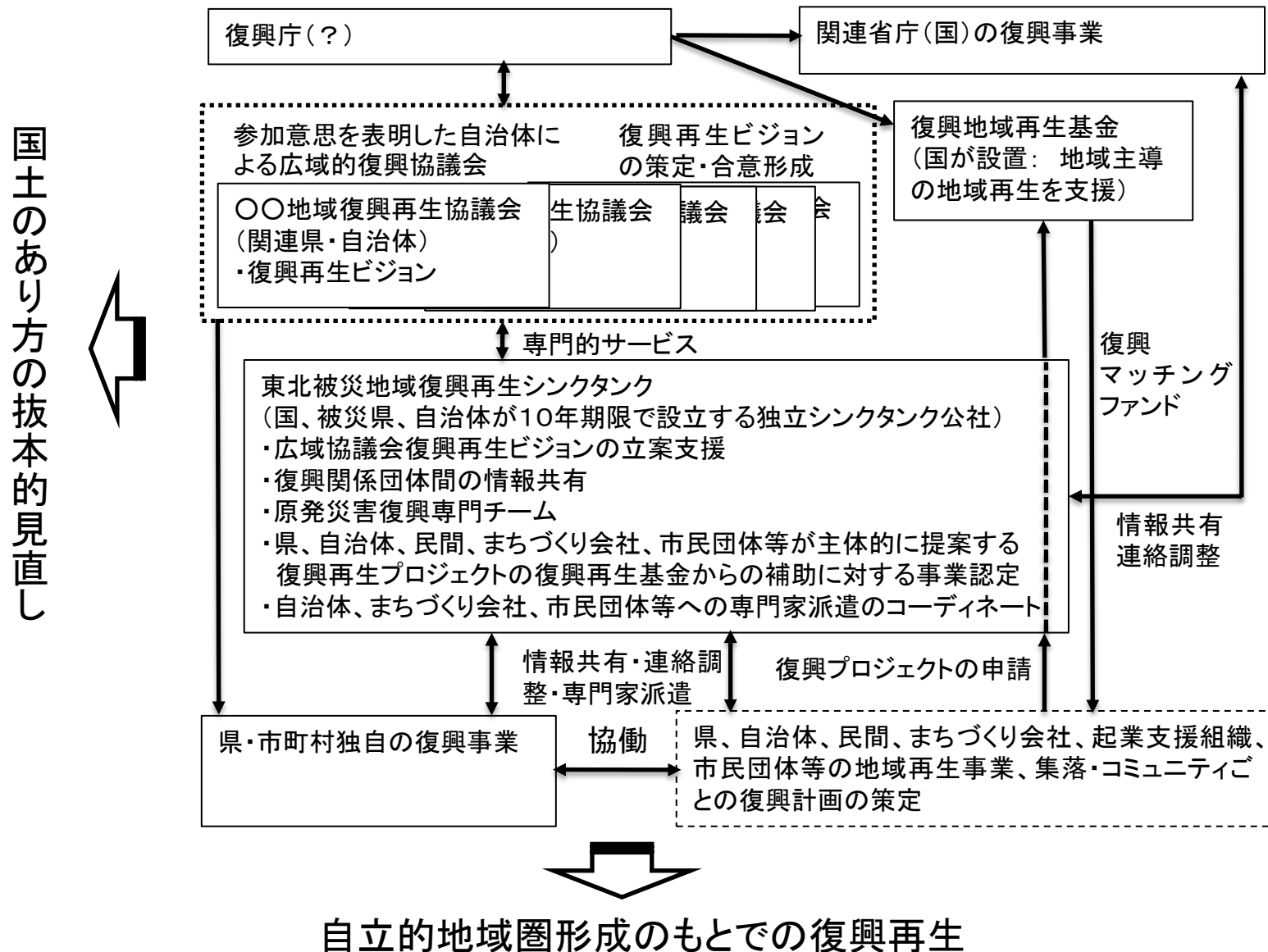
空間ガバナンスのあり方の見直し

ボトムアップ型調整から対話・熟慮によるフレーミングへ

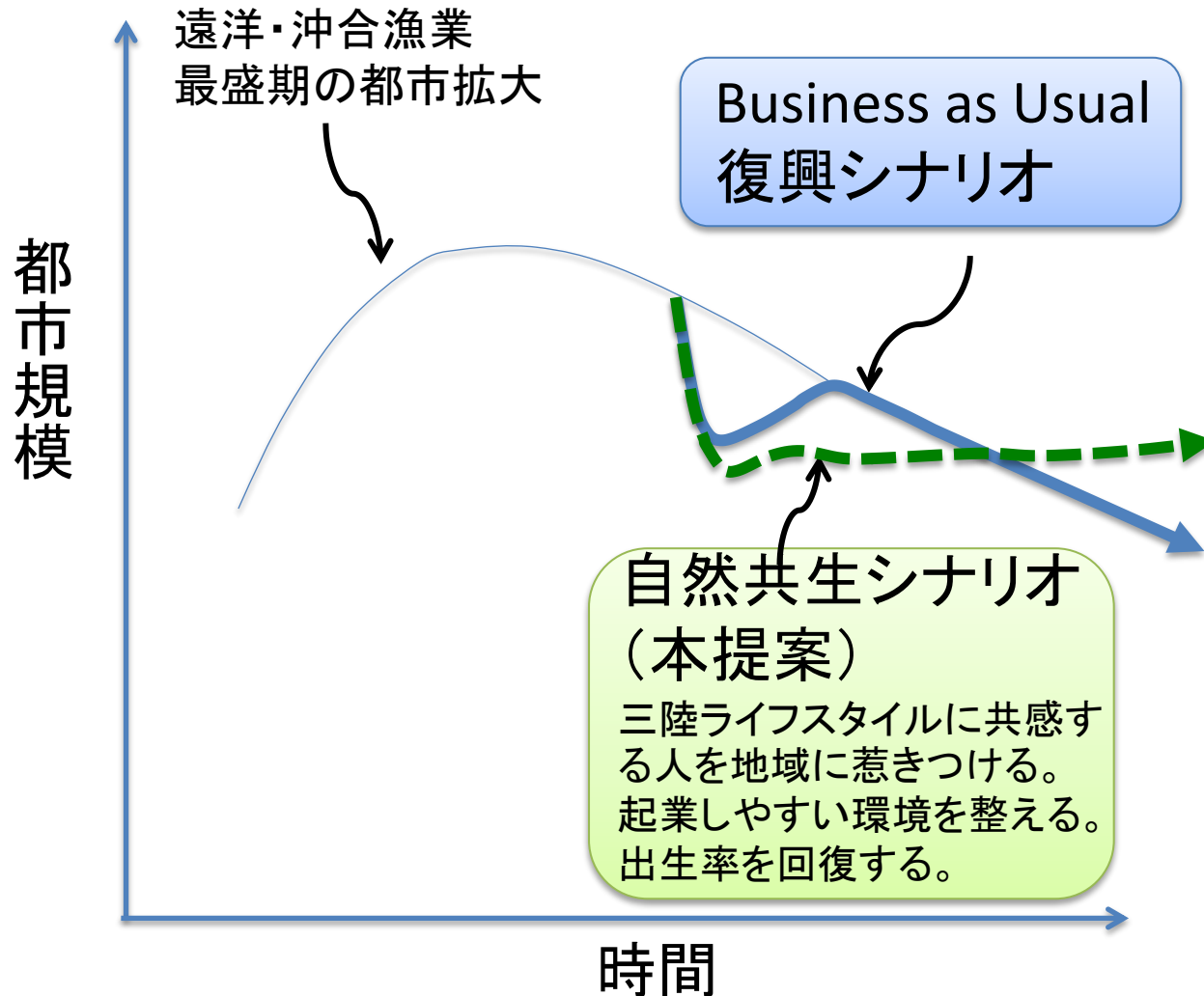
	広域的合意形成 の手法	合意形成の前提	構造
トップダウン型	統制	中央の権威	
ボトムアップ型	調整	開発基調 右肩上がりの 経済成長	
まちづくり型	自律	コミュニティ	
対話・熟議型	全体ビジョン・枠 組みの合意のも とでの対話	多主体間の ネットワーク	

2. 三陸広域復興ビジョンの研究

地域主導の再生と広域復興ビジョンをいかにつなぐか



復興シナリオ・イメージ



三陸広域復興ビジョン 「自然を豊かに生きる」

“三陸ライフスタイル”を世界に発信する



世界のなかで固有な価値をもつ三陸文化

メソポタミア文明

ユーラシア大陸
文明の伝播

インダス文明

遊牧民族

遊牧民文化
(大型家畜)

三陸地域

黄河文明
長江文明

農耕・漁労
文化
(稲作・雑穀・漁
労)

海民文化

ユーラシア大陸文明の東の到達地点 としての三陸地域

Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO

Image IBCAO

© 2011 Cnes/Spot Image

Image © 2011 GeoEye

神楽



黒森神楽

踊り



民謡



伝統工芸



街道



江戸しっし原
南部じゃ宮古よ
ドッコイショ
宮古まさりの鍬ヶ崎
ホーサ ヨイヨイ

宮古浦には 錨がいらぬよ
三味や太鼓で 船つなぐ

沖にゃららほら航海灯りよ
あれは宮古の大漁舟

思いがけない 大大漁だよ
浜は大漁の 旗の波

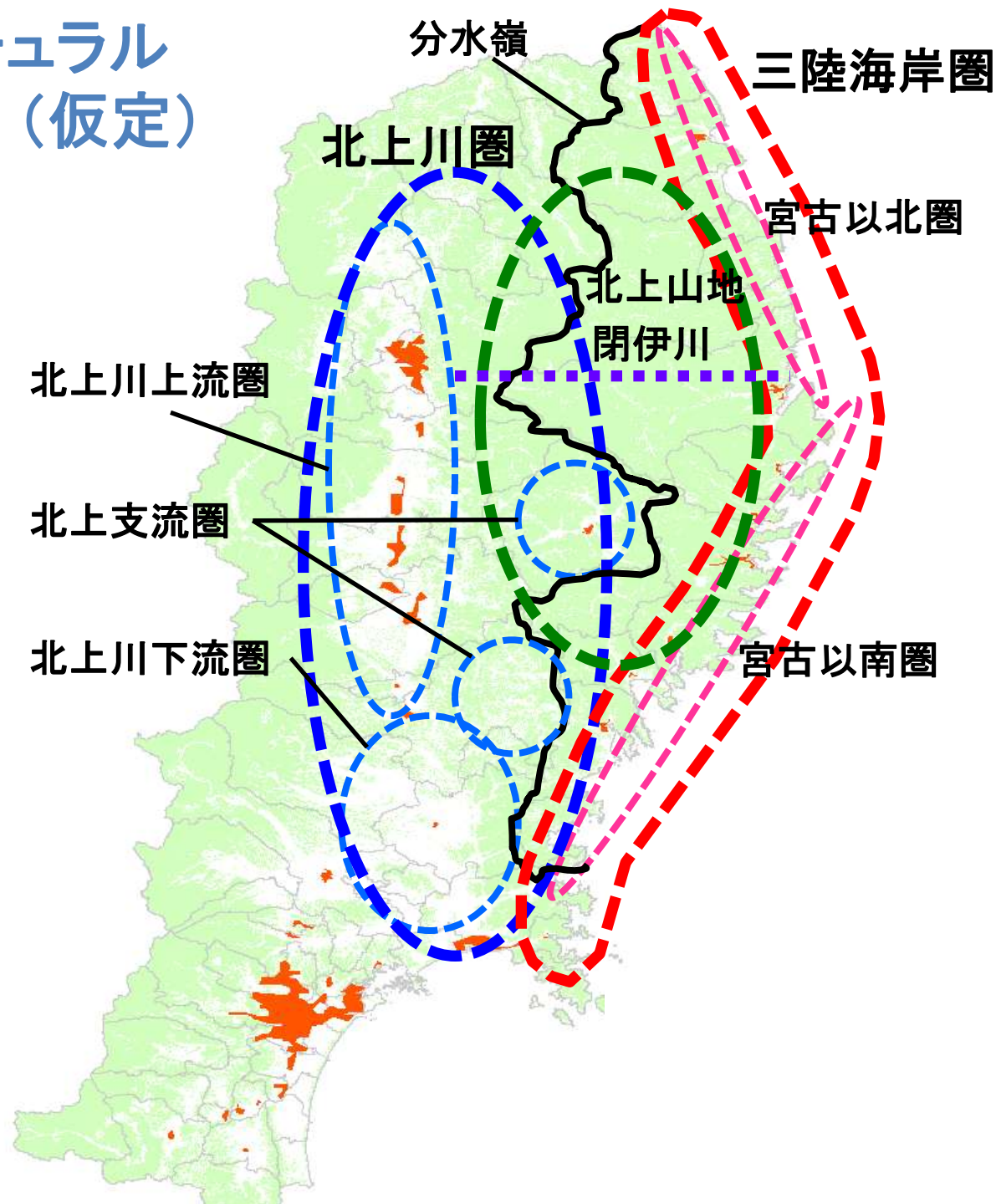
この家度敷は
めでたい度敷よ
鵜と亀とが奔い遊ぶ

鍬ヶ崎浜唄



虎舞

エコ・カルチュラル ・ネットワーク（仮定）



「三陸ライフスタイル」を世界に発信し、人々をひきつける

- 自然と文化を再生する。
 - 巨大津波防潮堤に象徴される、人と自然を分断する社会から、津波防潮堤を建設せず、むしろ、取り除き、自然と文化の再生を丁寧に進めることにより、自然と共生する社会へと価値観を転換する。
- 縮退を積極的にとらえ、生活文化を継承するまちなみをつくる。
 - 人口の減少にともなう市街地の縮退と内陸、高台で津波災害を避け、さらに今までの生活文化を継承するまちなみをつくる。
- 雇用の場を内陸へと再配置する。
 - 水産加工業等、歴史的経緯のもとで港に近接して立地しているものの、内陸に立地することが可能な雇用の場は、内陸に立地することを誘導する。
- 「産業誘致」から「人をひきつける」ことへと地域活性化の考え方を180度転換する。
 - 豊かな自然文化とともに暮らす三陸ライフスタイルを世界に発信し、その自然と共生する価値観に共感する人々を三陸地域へとひきつけ、地域活性化へとつなげる。
 - 仙台、盛岡さらには新幹線、空港へのアクセスの強化により、都市文化も同時に享受することができるヴァイブラントな地域像をつくりあげる。
 - 観光者から定住者へ
 - 多様な定住スタイル
 - 若者にとって魅力的なライフスタイル
 - 起業しやすい環境



インドネシア、アチェの復興Village Plan



Source: BRR book Series, THE EXECUTING AGENCY OF REHABILITATION AND RECONSTRUCTION FOR ACEH AND NIAS (BRR NAD-NIAS), 2009

将来フレーム設定の考え方

【人口設定】

巨大防潮堤の建設ではなく、内陸・高台への移転による津波災害を避ける事を念頭に置いた。

この考え方に基づいて将来における

自然と共生するライフスタイルのあり方を考える

値としては以下の計算式を用いた

$$\{ (2010\text{年人口} - \text{死亡} \cdot \text{行方不明者数}) - (\text{浸水域人口} - \text{死亡} \cdot \text{行方不明者数}) \times 0.2 \} \times \text{人口指数}$$

→現在の地域全体人口のうち、浸水域の住民の3割が他市町村へ移転し、1割分の若者を呼び込む。そして地域全体の見通し(人口指数)としては社人研による予測に従うと仮定した。

※死亡・行方不明者数は2011年9月30日時点

【年齢構成】

上にあるように、人口減少は受け止めつつも、新たなライフスタイルを構築する中で共感する若者を三陸地域に惹きつけ、さらに出生率も回復されることを意図している。

三陸地域(南部) 空間フレーム



目指すべき空間構造 広域サービス・ネットワーク

将来市街地

新幹線

高速道路

森林

空港

国公立大学

基本サービスネットワーク
(通学・医療)

中位サービス
・ネットワーク
(都市的生活)

広域サービス・ネットワーク
(東北全域・仙台ハブ)

- ①: 仙台都市圏(140万人前後)
(仙台市・栗原市・石巻市・名取市等)
- ②: 盛岡都市圏(35万人前後)
(盛岡市及び周辺自治体)
- ③: 岩手中央都市圏(35万人前後)
(花巻市・北上市・奥州市・一関市)
(人口は概数)

From 山形・秋田など

To 東京・大阪・諸外国など

目指すべき空間構造 広域交通ネットワーク

- 将来市街地
- 新幹線
- 高速道路
- 主要道路
- 森林



□高速移動ネットワーク
仙台、盛岡、内陸主要都市
からの一時間圏の構築

→地域内では鉄道よりも道路により都市地域間を結ぶほうが効果が高い。

→三陸縦貫道により、三陸都市を南から北まで結ぶよりも、釜石以北については、内陸都市と結ぶ高速道进行建設の方が効果が高い。

□通常移動ネットワーク

→基本生活圏におけるきめ細かな移動のための道路の復旧・整備

広域交通ネットワークの考え方

- 基本方針

東北地方全体の軸である東北新幹線・東北自動車道沿いとの東西ネットワークを充実させ、内陸諸都市との交流を強化する。基本生活ネットワーク圏では、一般道を軸とし、バスによる地域内の移動等、きめ細やかな移動への対応を重視する。

- 【高速移動ネットワーク】

三陸地域～内陸の主要都市を高速道路で結ぶ事で、両者を1時間強で結ぶ事ができ、一時間圏を構築。十分に日帰り圏内となり都市的生活を享受できるようにする。また、仙台空港や花巻空港といった広域ネットワークへの接続も高まる。

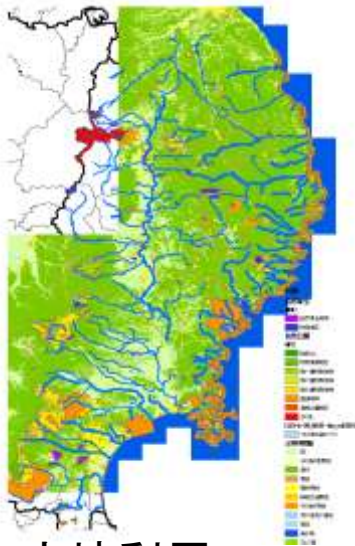
- 【通常移動ネットワーク】

三陸地域内の諸都市を結ぶネットワークについては、きめ細やかな移動がしやすいよう、一般道の道路網の復旧・整備を進める。

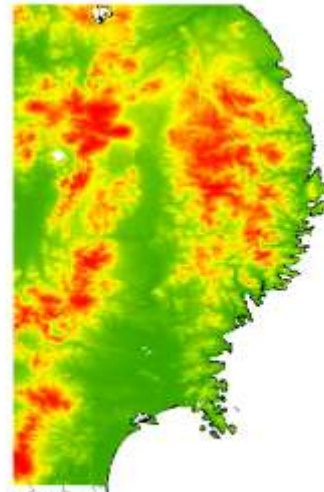
3. 分析

エコ・カルチュラル・ネットワーク

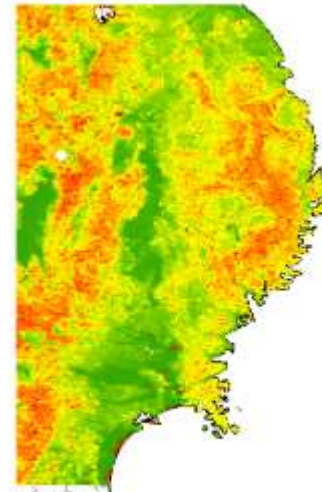
現状分析 — エコ・カルチャラル・ネットワーク —



土地利用

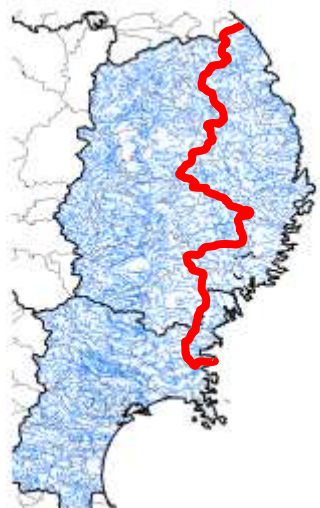


標高

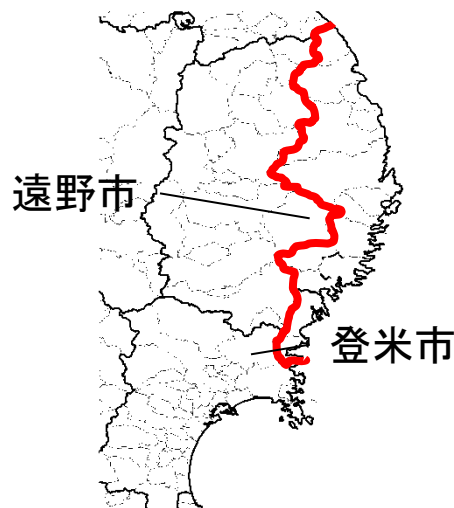


傾斜

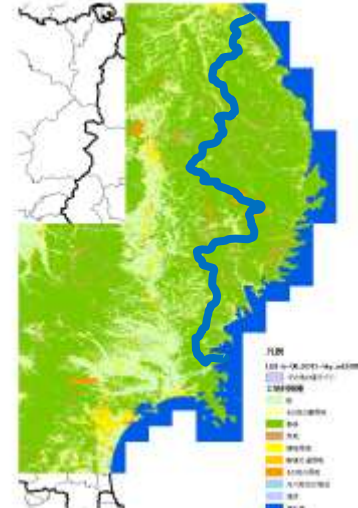
- 北上川沿いの平地に市街地が発展しており、高地・急斜面には市街地は見られない
- 市街地の形成の制約条件としては
標高<傾斜



河川と分水嶺



分水嶺と市町村界

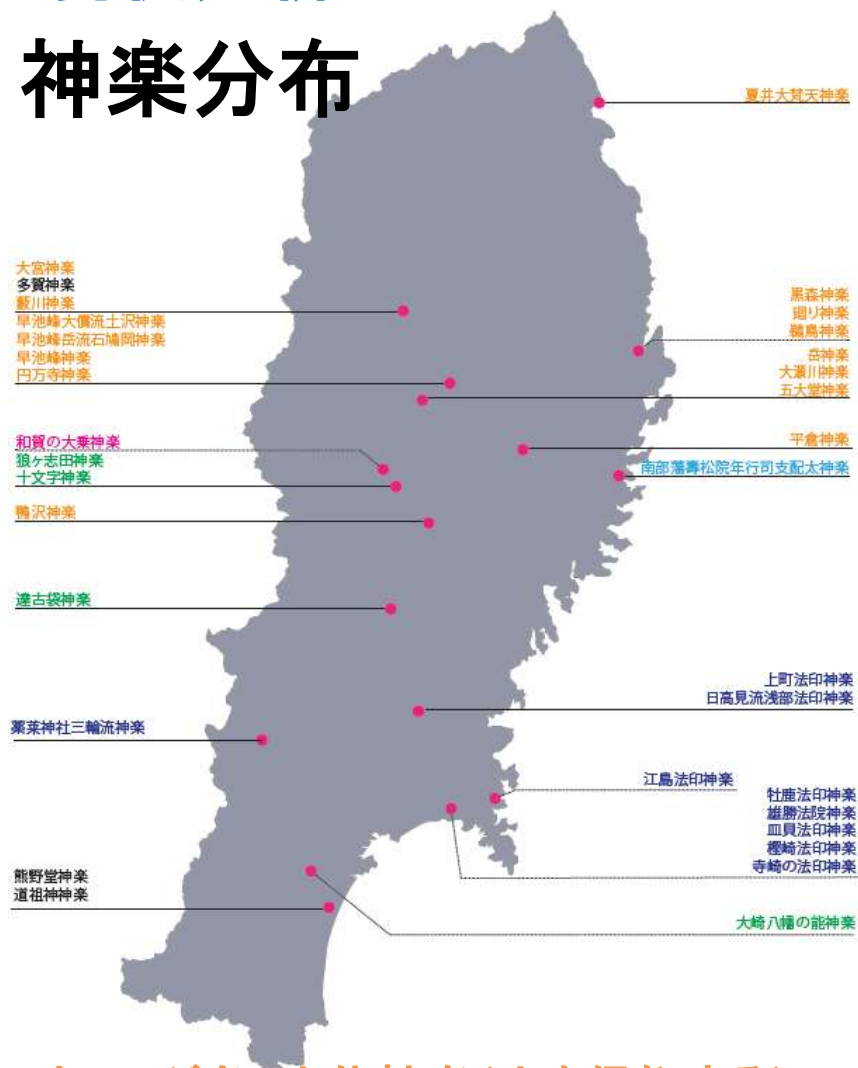


分水嶺と土地利用

- 分水嶺＝市町村界
- 遠野市、登米市は分水嶺による区分けによると両者とも北上川支流流域に属している。

現状分析 — エコ・カルチュラル・ネットワーク —

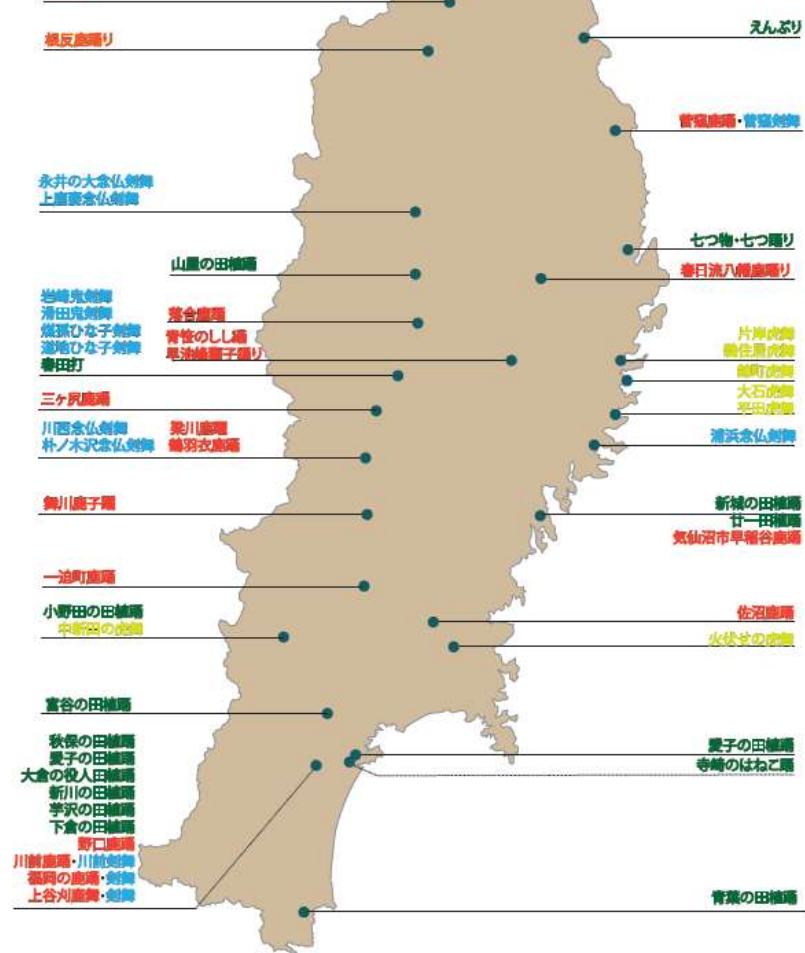
神楽分布



オレンジ色:山伏神楽(山を信仰する)
青色:法印神楽(豊漁を祈願する)

山岳地帯では山伏神楽、海岸線沿いでは法印神楽が多いことが見て取れる。

伝統芸能分布

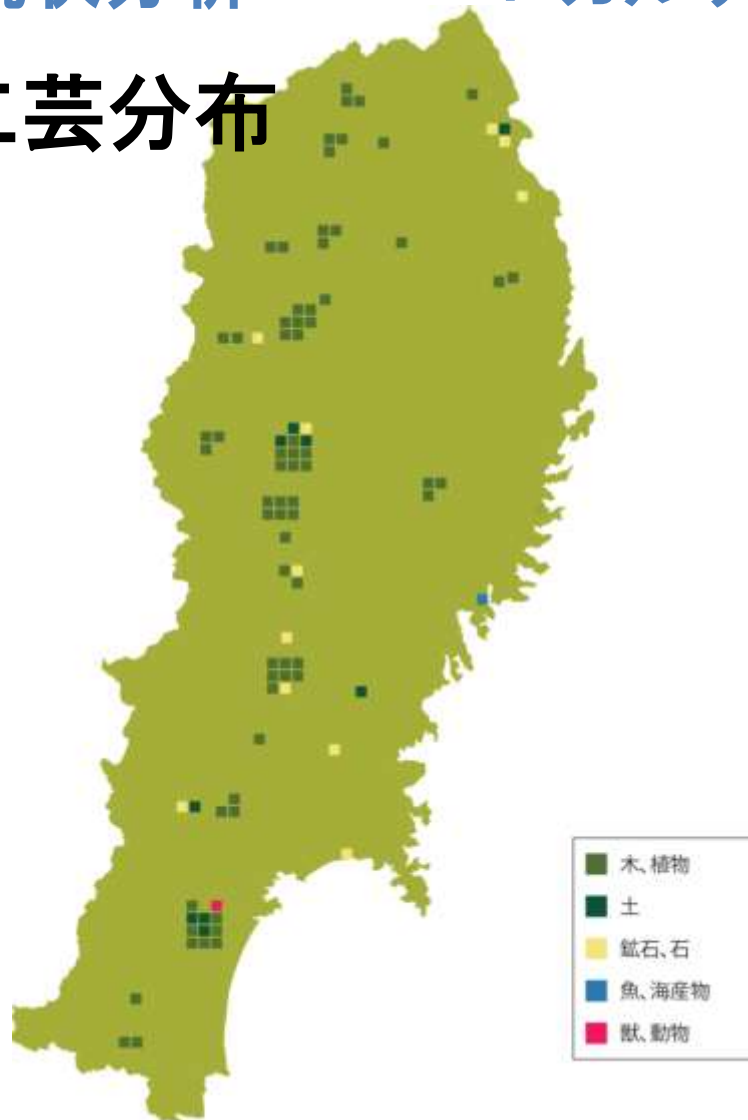


青色:鹿踊り 緑色:田植え踊り
赤色:剣舞 黄色:虎舞

山岳地帯に鹿を供養することを発祥とした鹿踊が多く、北上川沿いに田植え踊が多いことが見て取れる。

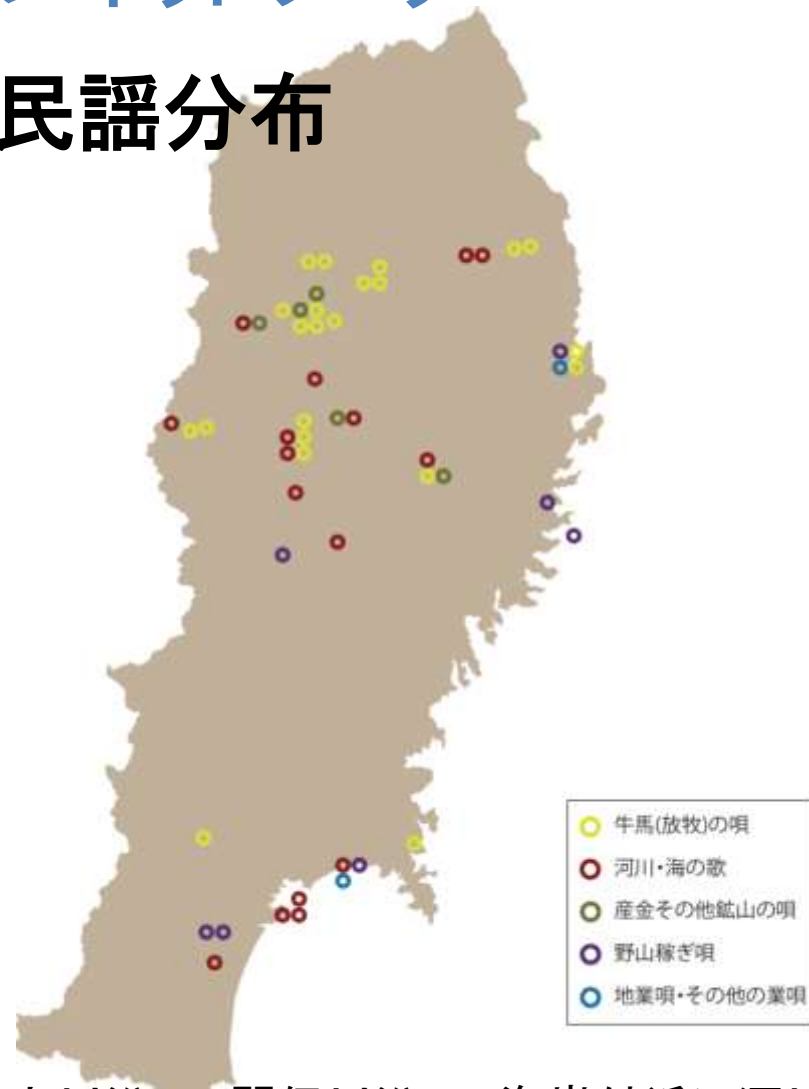
現状分析 — エコ・カルチュラル・ネットワーク —

工芸分布



山地囲まれた北上川沿いに木・植物、土、また漆を使用した工芸が多い。
ナラ林文化によりシラカバ等の樹林が栄え、それらを基盤にしたものと思われる。

民謡分布



北上川沿い、閉伊川沿い、海岸付近に河川系の唄(豊漁を祈願したもの)が多い。
また、北上川沿い、閉伊川沿いには放牧の唄が多く、この近辺で牛馬が飼育されていたことがうかがえる。

現状分析 — エコ・カルチュラル・ネットワーク —

北上川文化(全域)

北上川全域を通して
木・土を利用した工芸
作品が多く、また河川
唄・牛馬に関する唄が
存在する。

北上川文化(上・下流)

上流: 山伏神楽、鹿
踊りが多い

下流: 田植え踊りが
多い。

というように上流と
下流で差がみられる

閉伊川文化

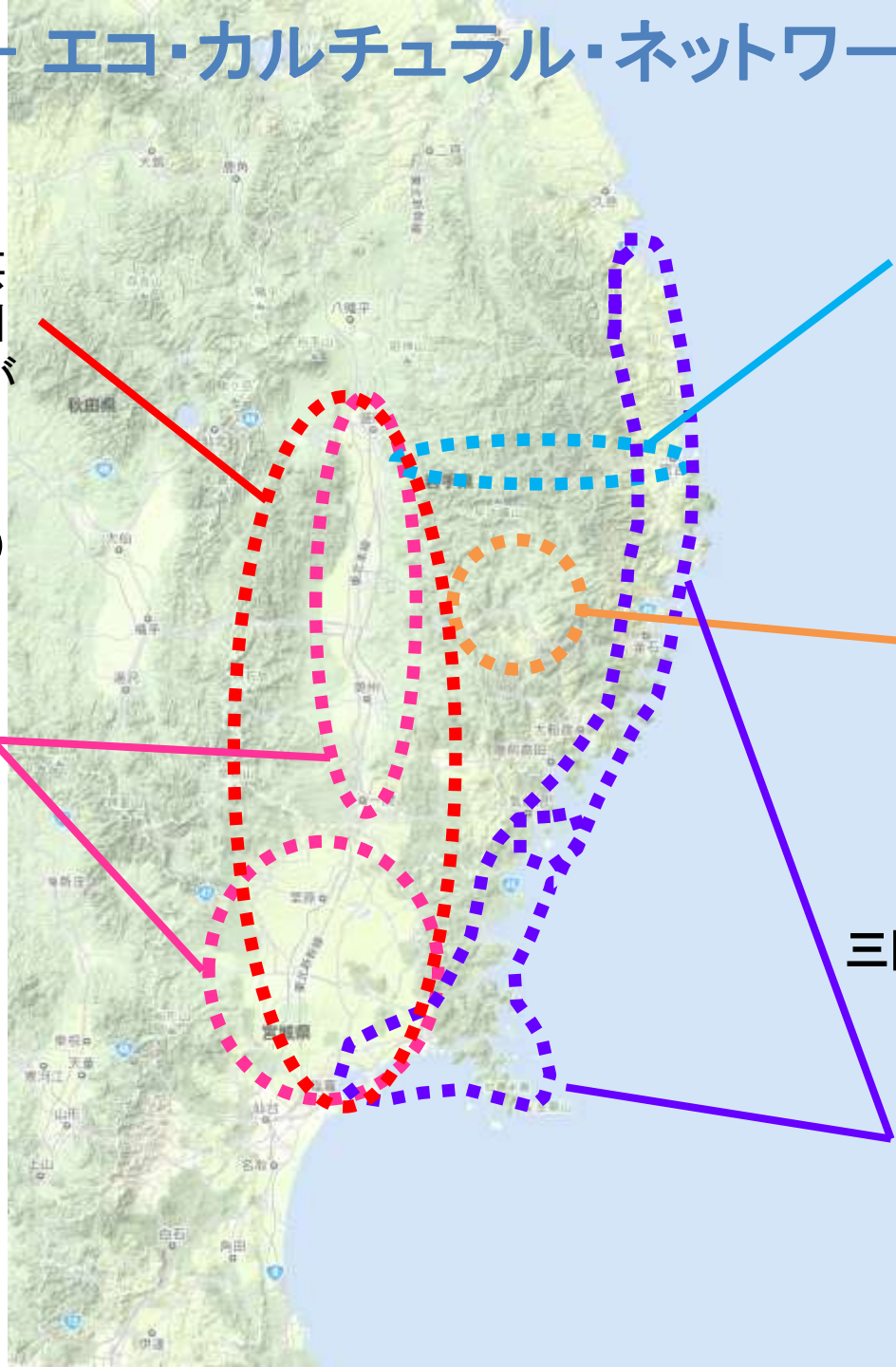
牛馬唄・河川唄、鹿踊
りが存在しており、古く
から東西を結ぶ役割を
果たしていたことがうか
がえる。

遠野文化

鹿踊り、山伏神楽、河
川・海唄、牛馬唄、鉱山
の唄等、山由来の文化
のみではなく水、鉄由
来の文化も存在し、文
化の集積地の様相

三陸文化(気仙以北・以南)

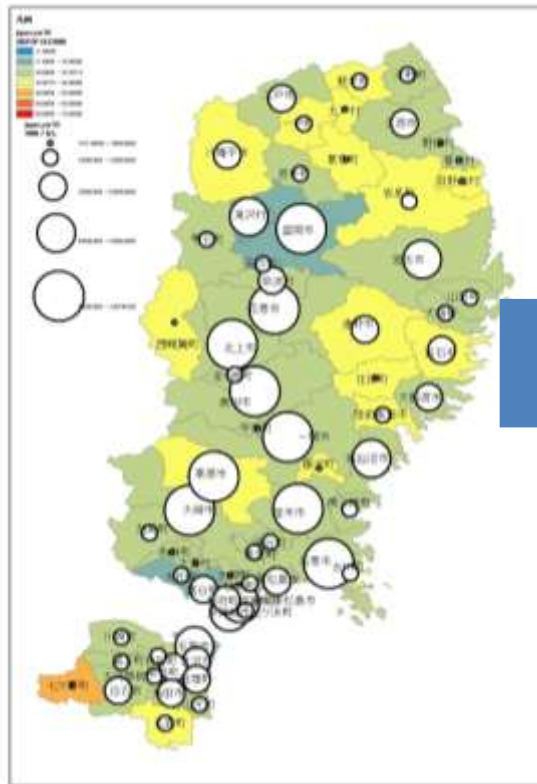
気仙以北: 虎踊りや山
伏神楽、太神楽が多い
気仙以南: 目立った踊り
の集積はなく、法印神
楽が多いことが見受け
られる。



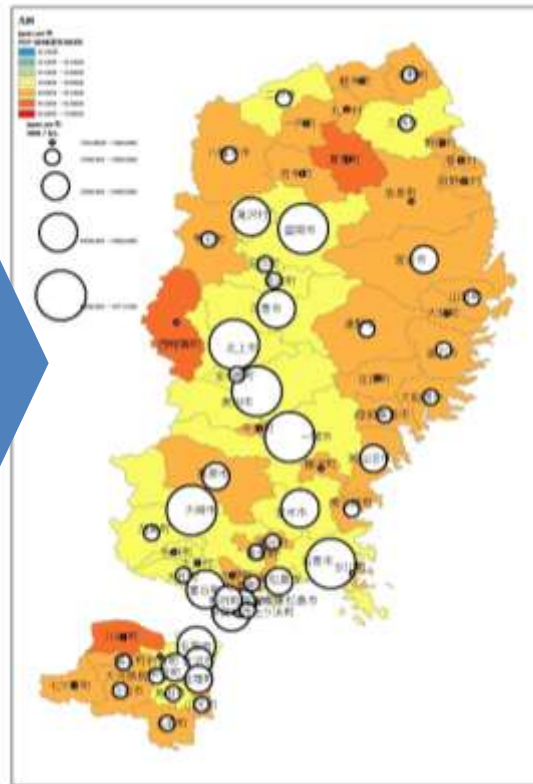
広域サービス・ネットワーク

現状分析 ―人口構造―

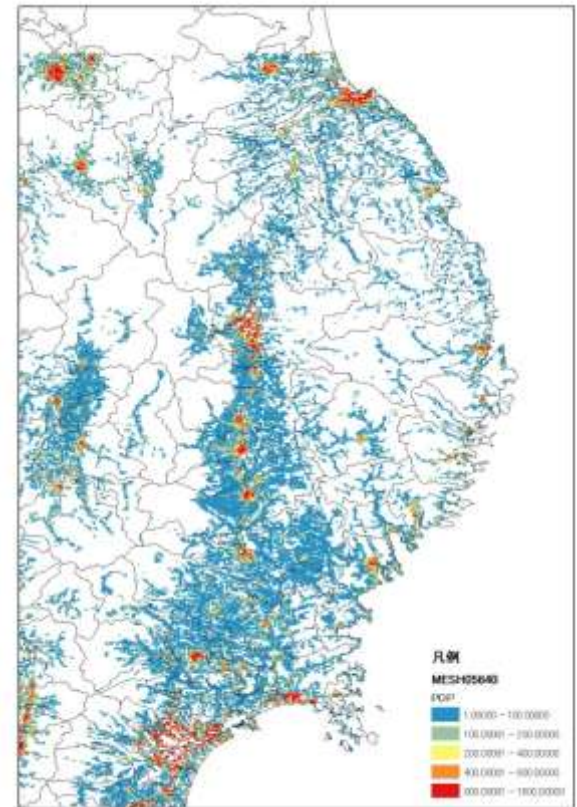
人口規模・高齢化率



2005年



2035年



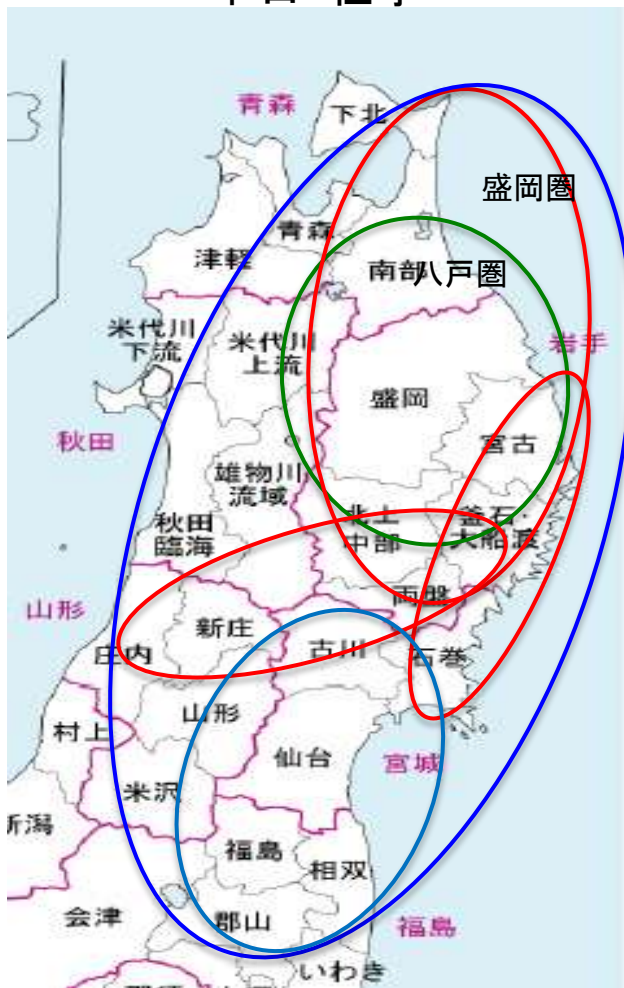
人口メッシュ

- ・人口規模、高齢化率ともに、2035年まで悪化する(人口減少・少子高齢化)。そして内陸都市部と三陸地域では差が既にみてとれる。
- ・人口メッシュデータによれば三陸地域は可住地が非常に狭く、その分可住地においてはかなり人口密度が高いことが分かる。

現状分析 — 広域流動 —

地域生活圏別の旅客流動に基づく県境を越える広域的なサービス圏域の分析

平日・仕事



休日・私用(帰省等)



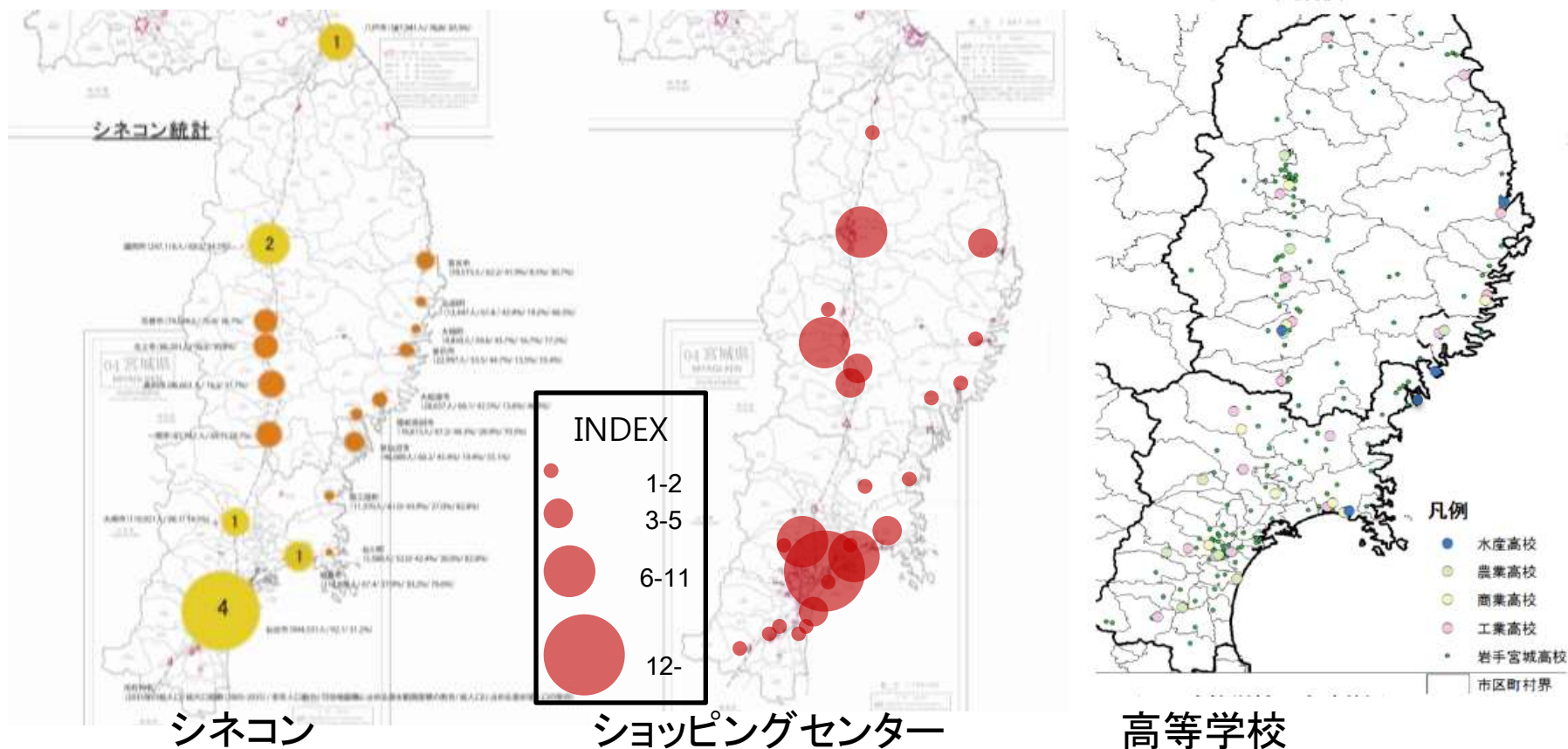
休日・観光(含商業)



※『全国幹線旅客純流動調査』＝航空、新幹線等の鉄道、幹線旅客船、幹線バス、乗用車等の幹線交通機関を利用して都道府県を越える旅客流動を旅客一人一人に着目し、乗り継ぎを含め実際の出発地から目的地まで、一連の流動を把握した全国規模の調査、に基づいて分析したものである。

現状分析 ―広域サービス施設分布―

具体的な施設に基づく広域サービスに関する分析



仙台をハブとする広域サービス圏と三陸と内陸を合わせた中規模サービス圏域が存在する事が分かる。対象地域としている南三陸地域(石巻市～宮古市)ではいずれの移動においても、県境を越える動きがみられる。

特にビジネスに関しては仙台への集積が、広域商業については仙台と盛岡への集積が進んでいる事が把握できる。

現状分析 広域交通網



元々東北地方自体が公共投資が他と比べて進まない地域であり、まず東北本線が整備された。そのため、三陸地域は陸の孤島と呼ばれる事もあり、それは内陸部に高速道路、東北新幹線が通っている事からもその格差がわかる。

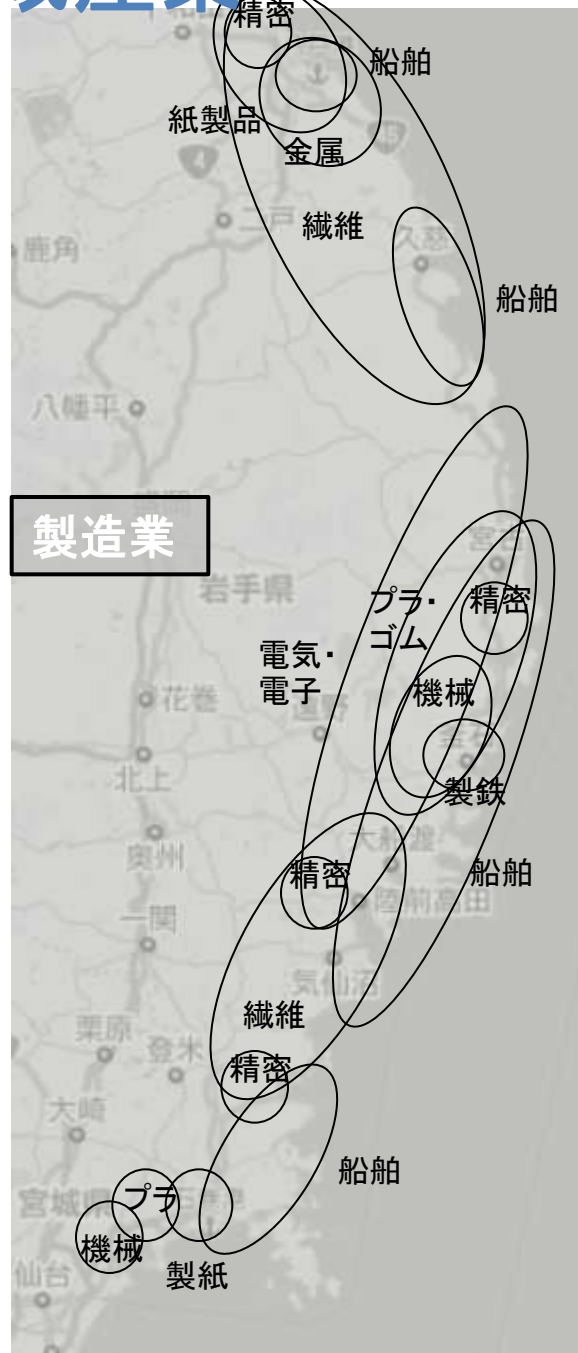
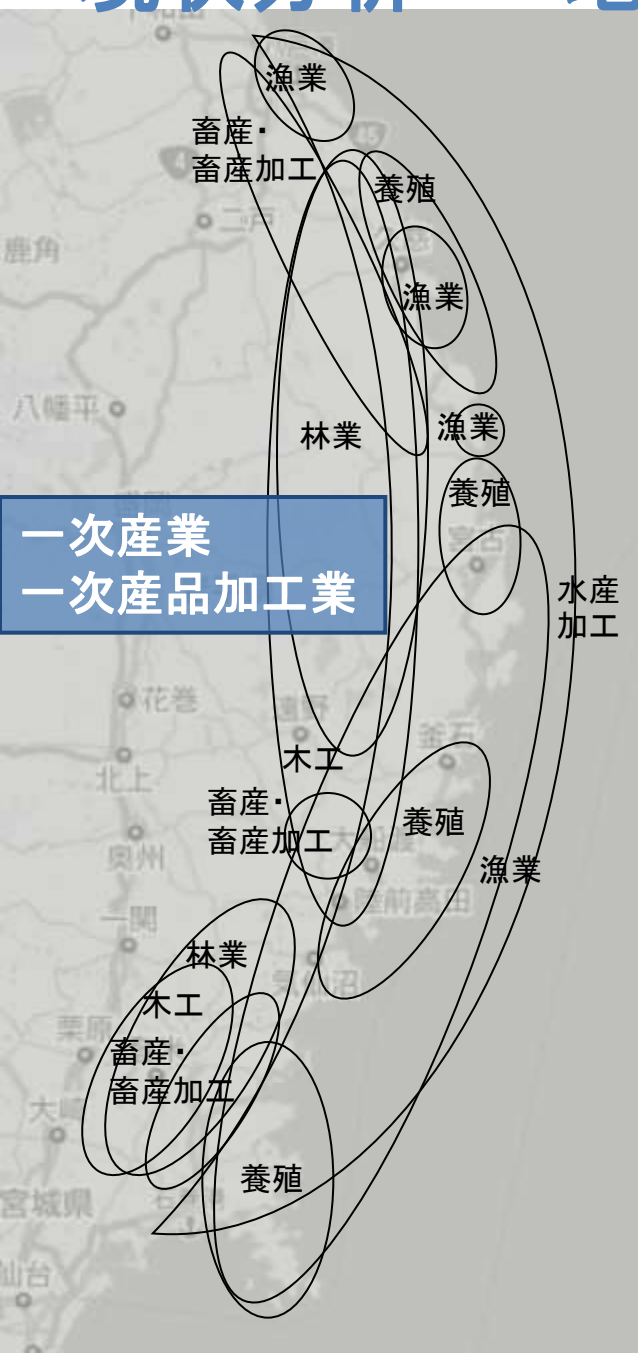
よって鉄道網・高速道路網が盤石ではない地域であった。

しかも今回の震災では特に鉄道は大きなダメージを被ってしまった。

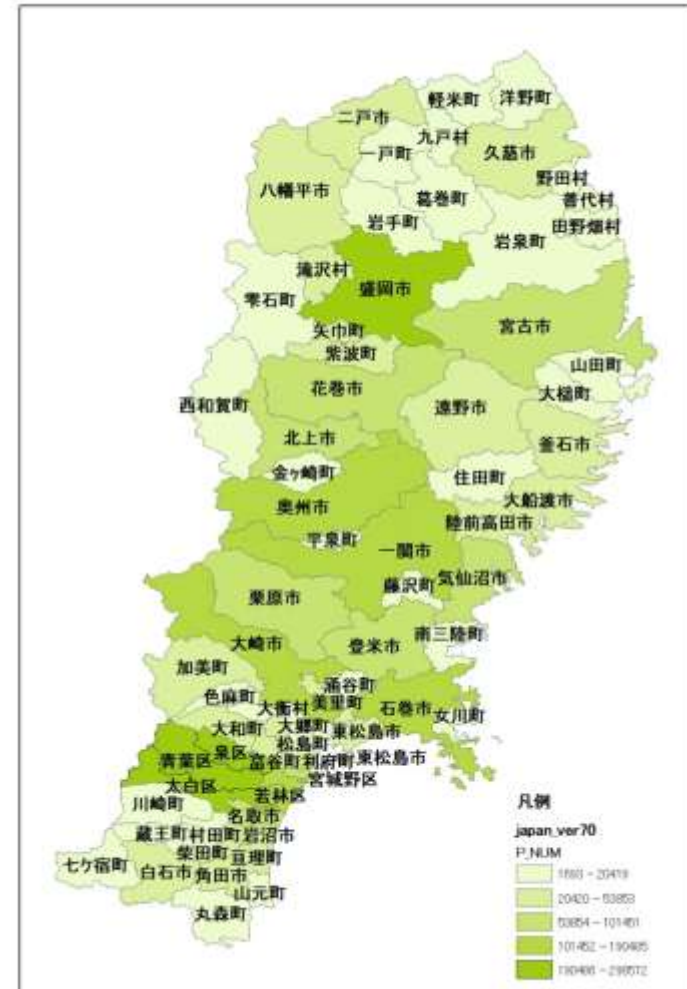
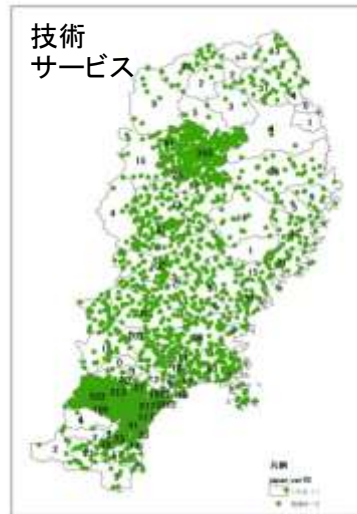
三陸⇔内陸を結ぶ東西軸、三陸を縦貫する南北軸ともに万全ではない

地域イノベーション・ネットワーク

現状分析 —地域産業—



現状分析 ―B to B(対事業所)サービス産業立地―



B to Bサービス産業別立地
→明らかな仙台市、盛岡市への集積

B to Bサービスの立地をみると、内陸部に依存している状況ではあるが、石巻市、気仙沼市、宮古市に一定の立地がみられる。

4. 三陸ライフスタイル 「自然を豊かに生きる」

“三陸ライフスタイル”を世界に発信する



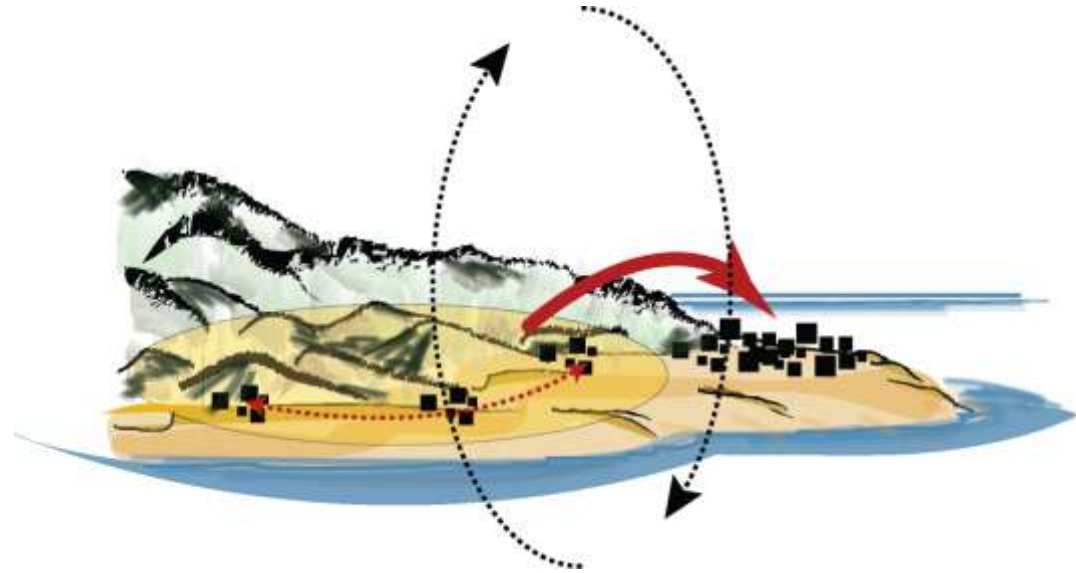
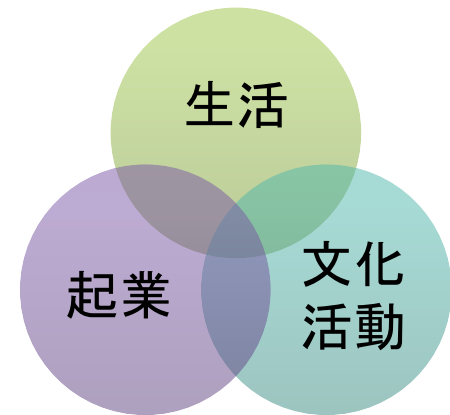
「三陸ライフスタイル」の提案

自然と共に生きる

日々を創造的に生きる

厳しい自然を豊かに生きる

お互いを助け合う地域コミュニティ

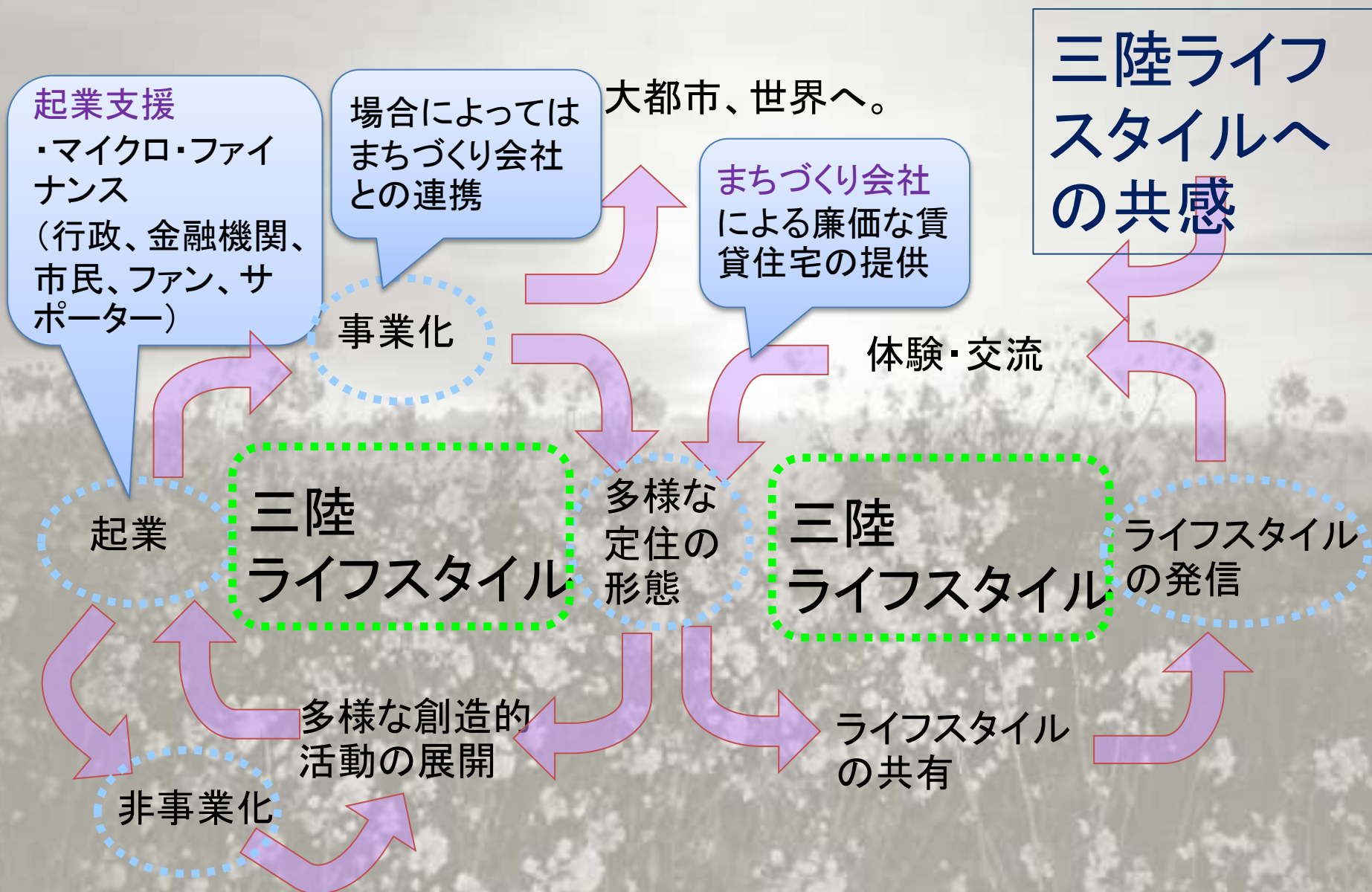


自律的かつ補完的なコミュニティのイメージ



- 自然サイクルの中で資源が循環
- まちとむらがそれぞれ特色をもち、補完的な役割を果たす
- 一人一人が多様な生業をもつ

三陸ライフスタイルを支える仕組み



まちづくり会社

「自律的」かつ「補完的」なコミュニティの結び付きの強さを活かし、さらに発展させる
⇒まちづくり会社の設立

【ポイント】

- ・まちづくりあるいは収益事業による利益は地域に還元される
(魅力的なまちづくりの実現、低家賃賃貸住宅の提供、6次産業の振興、交通と生活の確保)
- ・市民の理解と協力が不可欠
- ・復興基金、自治体、地元企業、一般市民からの出資等を元に運営

【テーマ】

- ・「まち」と「むら」の一体的かつ魅力的な再建計画
- ・観光産業の推進
- ・交通手段の効率的な運用(バスの共同保有・運行)
- ・地域コミュニティの更なる発展
- ・移住者の支援(多様な形態の移住を想定:定住、ときどき定住、長期観光滞在、等々)

例えば、

まちなみの再建と 賃貸住宅の供給

生活の場としても観光地としても魅力的な居住空間・街並みを実現する！

- ・人口減少に伴って、改築・減築・用途変更等を行うことを想定し、賃貸住宅を供給。あわせて、移住者への低廉な賃貸住宅も供給。
- ・地元の技術、木を使って家を建設し、まちなみ、むらなみを継承する。

6次産業の振興

まちづくり会社が主体となって6次産業の振興を行う！

たとえば、

- ・浸水地域における菜の花、ひまわりの栽培
- ・菜種油と菜種油を使った製品の開発・製造・販売
- ・養蜂と蜂蜜を使った製品の開発・製造・販売
- ・廃油を使った石けんの製造・販売
- ・バイオマス発電

復興の象徴的プロジェクトに

交通・生活 サービス

住民、観光客の移動、輸送需要に応える！

「まち」と「むら」間で

- ・住民の移動需要
 - ・福祉・医療サービスとの連携
 - ・移動マーケット・図書館
 - ・観光客の移動需要
- をITを活用して効率的に輸送する。(ex.コミュニティ・バス)

まちづくり会社のネットワーク化

たとえば、コミュニティ・バスの広域ネットワーク化

まちづくり会社によって、地域コミュニティを結びつけ、さらに発展させる！

例えば...

「菜の花バス」(コミュニティ・バス)
を「まち」「むら」間で効率的に輸送
する。

【運行】IT技術を用いて、人と物の移動を一
体的に行う。

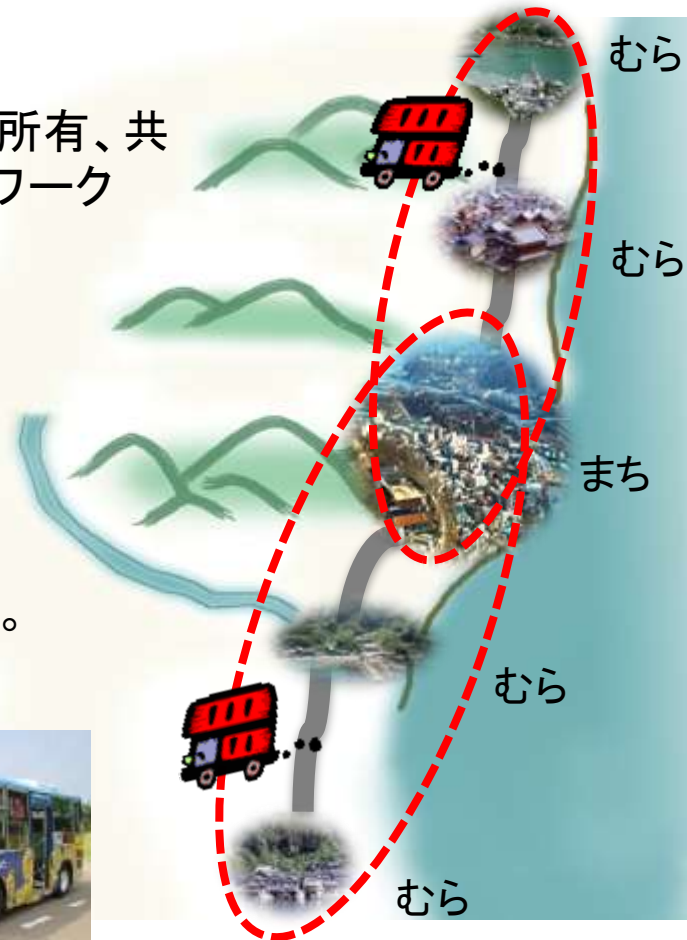
【動力】菜種油(花関連産業で自主生産)

【保有運営形態】複数のまちづくり会社で共同保有する。

【バス外観】「菜の花バス」の名にふさわしい、
カラフルで可愛い外観。観光面でのアピ
ールポイントとして使えるような印象的なデザ
イン。



バスの共同所有、共
同運営ネットワーク

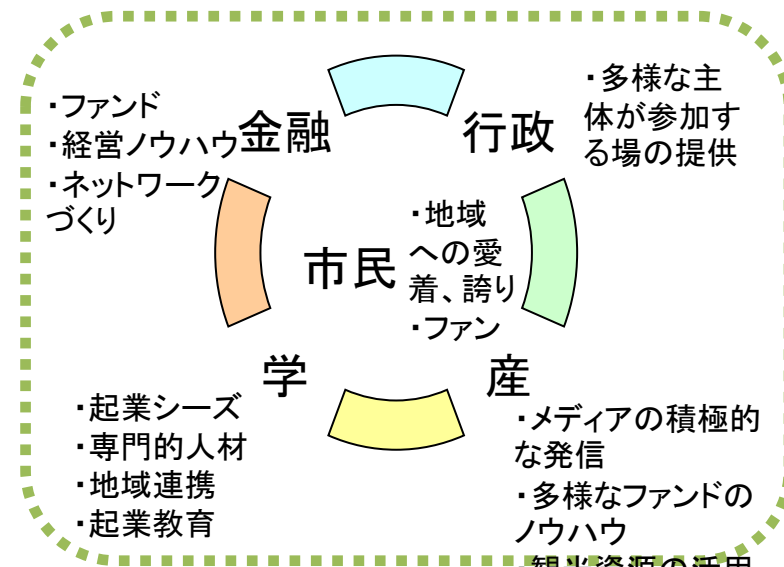


⇒まちづくり会社同士のネットワークの拡大
を支援する体制の整備も必要

三陸ライフスタイルInc.

復興プロセスだからこそ日本で最も起業しやすいという魅力をつくり、人を惹きつける

- 産・学・行政・金融・市民をつなぎ、コミュニティ・ビジネスからITビジネスまで、多様な起業を支援する。
- ライフスタイルへの共感を担保とする新しいスタイルの小額金融支援を展開
- 事業イメージ
 - 三陸ライフスタイルにあう活動の認定と認定された活動に対する起業支援
 - マイクロファイナンスの運営
 - 市民、サポーター企業、三陸ファンが、少しずつ広く投資する三陸マイクロファンドの創設(インターネットの利用)
 - 起業情報の発信
 - 地元メディア、行政との連携
 - 起業教育の支援
 - 小中高、高専、大学との連携
 - 起業ツーリズムの運営
 - 三陸ライフスタイルを体験しつつ、起業ノウハウや、起業体験、ネットワークづくりを行える、全く新しい知的観光の開拓



これからの三陸ライフを
イメージする

三陸の四季を感じる



●三月

3月三日のひな祭り

雛祭りに欠かせないのが、女の子の健やかな成長を願って飾る、お雛様。
“じぞっこ（花巻人形）”を飾る家庭も。



●四月

菜の花

美しい菜の花は、三陸に光と希望を導いてくれます。魅力的な風景を観光に来る人もたくさんいる。



●五月

山菜取り

山で、タケノコ、タラバ、ワラビなどがたくさんある。旬の山菜が食卓に並び始める季節の到来である。



鯉のぼり

男の子の誕生と成長を祝う端午の節句。イメージは「晩春の晴天の日の青空にたなびくもの」となった。

三陸の四季を感じる



●六月

梅雨

天気は、農業にとって非常に重要である。雨量は、多すぎても少なすぎても悩みの種となる。どうか恵みの雨となって、大地を潤してくれま



●七月

ホタル

夏の夜は、非常に美しい！清らかな流れに囲まれた町では、ホタルの幻想的な光が夏の夜を明るく照らす。



花火とBBQ

涼しくて快適な三陸の町では、7月でもBBQを楽しむことができる！Made in Sanrikuの木炭を利用したBBQは断然名物！！

●八月

お盆

先祖の霊を迎えるお盆。帰省した人たちの笑顔も弾ける、夏の終わり。



りんどうの収穫

集落に神秘的な深い紫が咲き誇る頃、秋がやってくる。それは、涼しくなる！



三陸の四季を感じる



●九月

例大祭

毎年、年次フェスティバルは、集落に神社で開催される。収穫の時期を前に、五穀豊穡と無病息災、安全を祈って、神楽が奉納される。

種播き

いよいよ、菜の花職人の出番です。
菜の花畑に栄養満点の肥料をたっぷりと挙げ、
種播きをします。

お月見

天空の郷、町の美しい夜空に浮かぶ月。団子や芋、栗、おはぎなどをお供えて、名月を愛でる。それは、非常に美しい！



●十月

土のもの

じゃがいもや大根がたくさんある。大地に抱かれて育まれた土のものの収穫が行われる。

さんま祭り

全国でも有名な三陸のさんまを食べつくし、
元気な三陸の海を祈る。



●十一月

神楽の練習

忙しかった農作業も終わり、舞納めに向けた練習にも、一層熱が入る。集落では、薪の準備を行い、厳しい冬に備える。



三陸の四季を感じる

●十二月

舞納め

一年の感謝をもって神に舞を奉納する「舞納め」が行われる。昔は各家庭で家の祠や神社にお参りする「お宮さんの年とり」の際に、神楽衆を招いて御神楽が行われることもあった。

真牡蠣

広島に続く全国2位の三陸の蠣！
蠣を目当てに東京から大勢の観光客が来られる。



●一月

元朝参り

町の一年は、祠をお参りすることから始まります。

舞初め

集落の一年の無事と繁栄を祈念して舞初めが行われます。集落の人々の笑顔も、新しい年への希望に満ちています。

みずき団子づくり

木を山で伐ってことから始まる小正月の伝統行事。五穀豊穡を願って、色とりどりの団子が飾られる。



●二月

年祝い

厄年や長寿祝いの節目の年に、神への感謝と、ご加護を祈念し、神楽も神事の一部として行われる。

三陸産初摘み新わかめ

三陸産わかめは全国に誇るもの！初摘みを楽しみながら春を待ちる。



一日生活編

(漁村、町住民、観光客)

漁村での一日

【年齢】60代

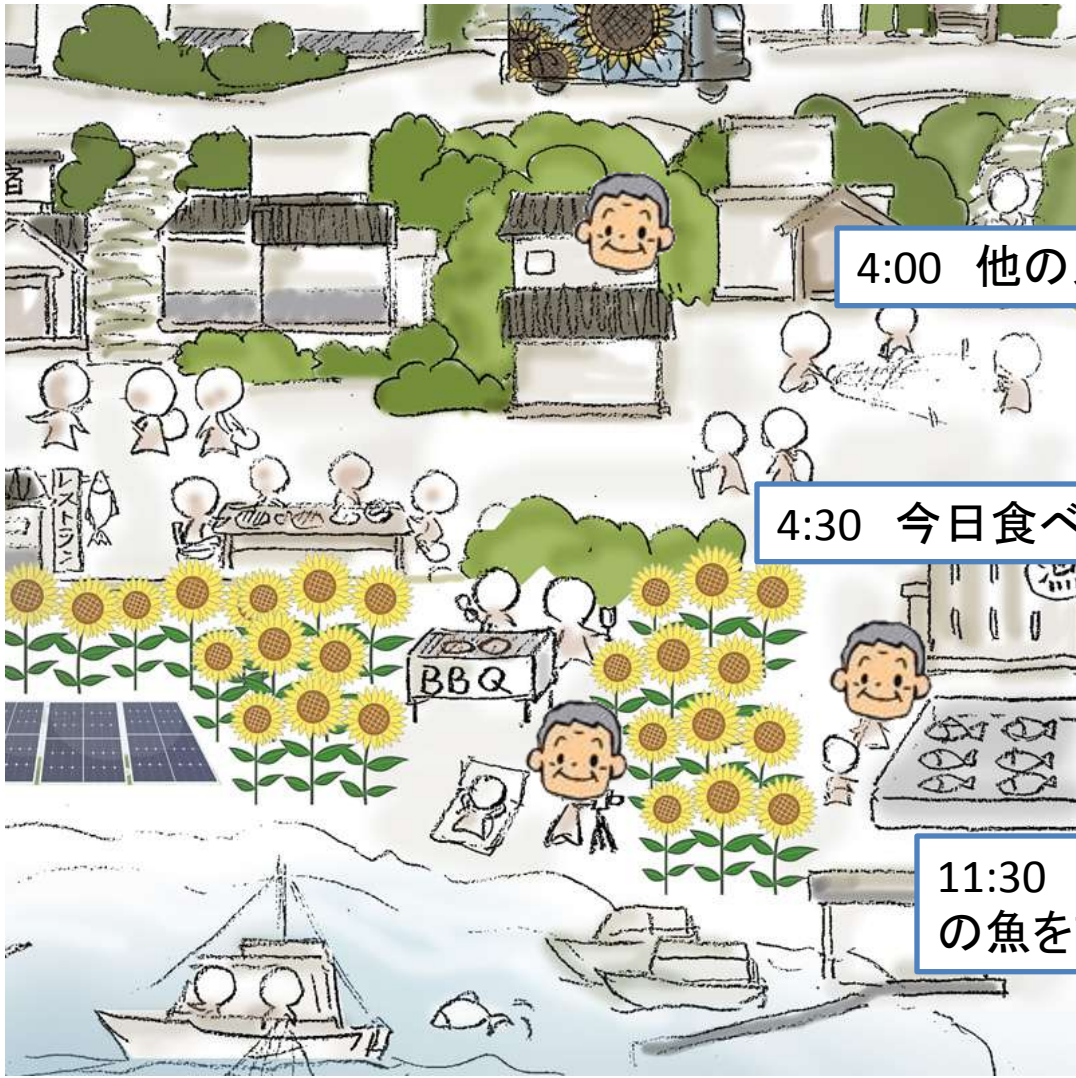
【性別】男

【職業】菜の花畑の農家＋漁師

【出身】60年間漁村

【家族】妻、息子（林業）、息子の妻、孫（二人）。二世帯で暮らしている。

【最近の楽しみ】孫と出かけること



4:00 他の人を起こさないように静かに起床。

4:30 今日食べる魚を取りに海へ出る。

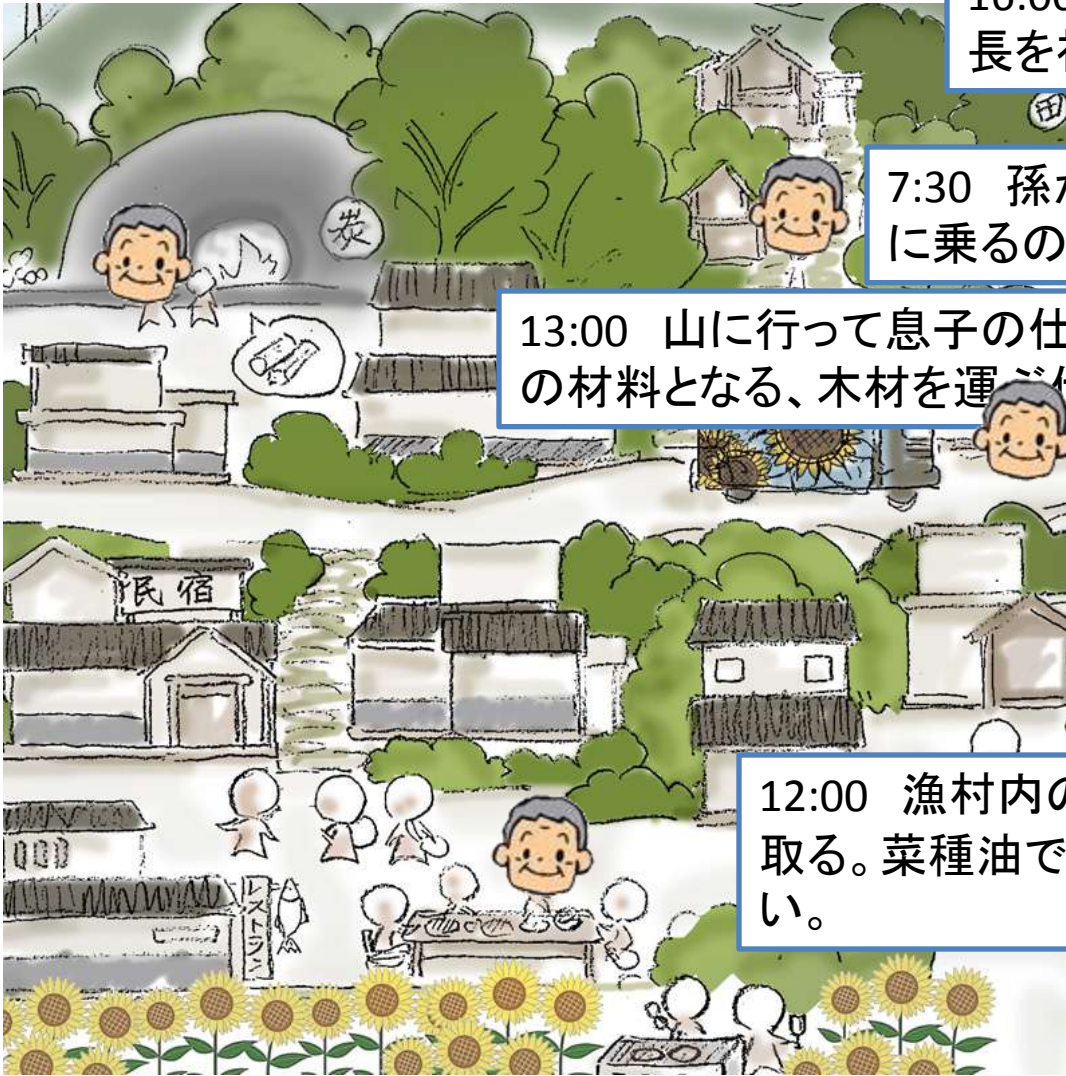
11:30 港にもどり、家で食べる分以外の魚を市場に出す。

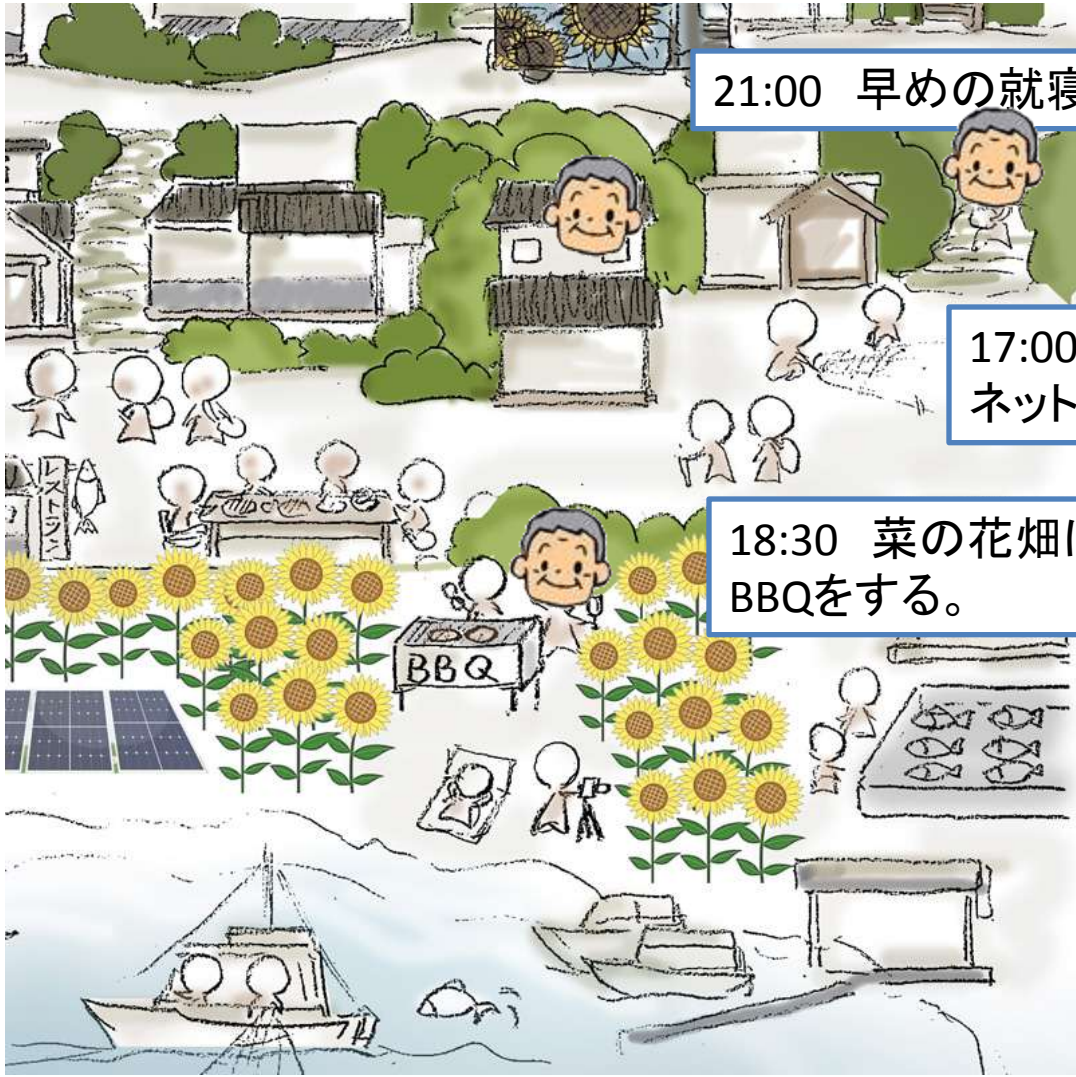
16:00 仕事帰りに神社によって、孫の成長を祈る。

7:30 孫が学校に行くために「菜の花バス」に乗るので見送りに行く。

13:00 山に行って息子の仕事を手伝う。木炭の材料となる、木材を運ぶ仕事をする。

12:00 漁村内の山菜レストランで妻と昼食を取る。菜種油で揚げた、山菜てんぷらは上手い。





21:00 早めの就寝

17:00 帰宅前に物流センターに行って
ネットで注文した商品を受け取る。

18:30 菜の花畑に行って、一家＋近所の人と
BBQをする。

まちでの一日

【年齢】28才

【性別】女

【職業】菜の花畑の農家

【出身】三陸で生まれ育ち、高校と大学を仙台で終了して、地元に戻ってきた。三陸で家を建てて住んでいる。

【家族】旦那はバイオマス工場の研究職と趣味で菜種を管理している。一歳の息子を持つ。

6時:起床、朝ご飯を準備しながら、ヨーロッパとアメリカの株式市場をチェック



9時:暇になったので、三陸でとれた魚でカルパッチョをおつまみとしてシャンパンを飲み、映画を鑑賞

12時:東京の株式市場で取引をしながら、簡単にお昼をすます。



14時: 来週発表する神楽の練習で「三陸の家」へ

22時: 旦那と犬をつれて散歩し、かえって寝る
~~お休み~~

18時: 今日の晩御飯は、山菜ごはんをメイン
に海の幸、山の幸をたっぷり

17時: 練習帰りに友達と子供と一緒に菜の花
をみながらおしゃべり

三陸四季観光物語

- Profile

- Aさん、25才。東京から観光に来る。



漁村にやってくる。ホームステイ先の家でおばあちゃんとおじいちゃんが大歓迎してくれる。

春

HARU



翌日

春

HARU

- 4:30 起きる。
5:00 海岸から日の出を見る。
6:00 山で山菜やタケノコをとる。
8:00 ひまわり畑で犬と散歩する。
9:00 菜の花バスで配達された野菜と海産物をバス停にとりにいく。
10:30 おばあちゃんと一緒に地元の郷土料理を作る。
12:00 みんなで昼食。
13:00 おじいちゃんに三陸の歴史の話を聞き、昼寝をする。



春

HARU

15:00 菜の花バスでまちに行く。
三陸の家で地元の踊りのレッスンを
見る。
17:00 ショッピングセンターで服を
買う。
18:00 レストランで地元の魚を食
べる。お店の人と仲良くなって、た
くさん話をする。
20:00 菜の花バスで漁村に帰って
、寝る。





今日はコンサートを聞きに盛岡に行く。盛岡まで高速バスで1時間。たまには都会の雰囲気もいいね。

今日は祭の日。朝から祭の準備で大忙し。地元の人たちと踊って、大漁を祈る。

夜はBBQ。地元の木炭で、地元の魚介や野菜、牛肉を焼いて食べる。





観光客としてこのむらに来て、いつの間にか半年
が経っていた。
まちで安く家を借りて1人でのんびり生活している。



秋

AKI



この時期は菜种植えのアルバイト募集がよく出ている。菜种植えを手伝う。

来年の夏、収穫した後は近くの工場で菜種油の製造が始まる。菜種油を使ったパンをつくってみようかな。



年末年始にかけて神楽が行われるので、最近は神楽の練習で忙しい。

昼は牡蠣の収穫を手伝って、夜は近所のみんなと牡蠣パーティーをする。もちろん地元の白ワインと一緒に。





観光客としてやって来たのに、居心地がよくて、
いつのまにか住人になってしまっていた。。